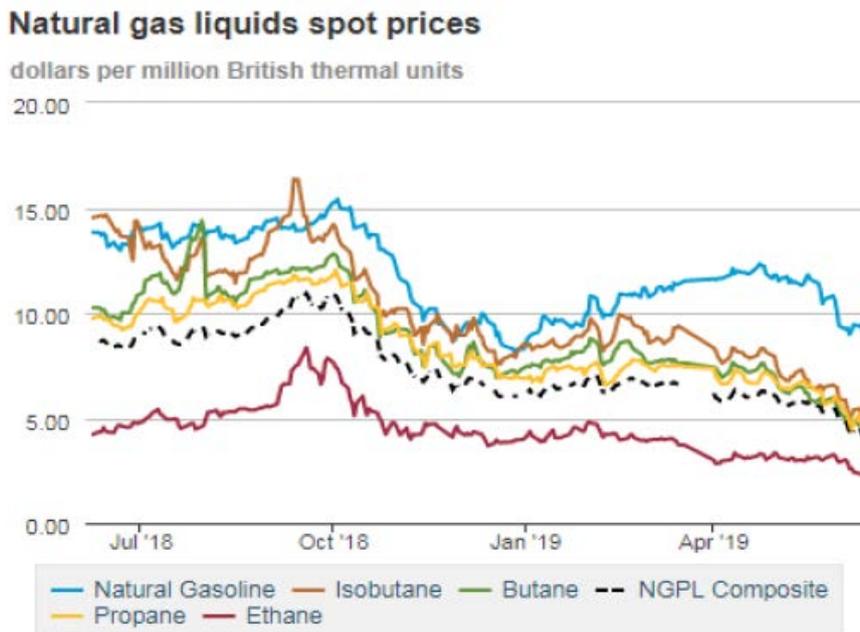


7月CPは原油急落と需給緩和でプロパン 350ドルも

1. <急落するエタン・LPガス>

原油価格が急落したことを受けてLPガスなどの市況も大きく下げている。モントルベリューのプロパンは6月5日には207ドル/トンとなった。その後やや持ち直してはいるが、220ドル前後にとどまっている。同ブタンは210ドル台だ。天然ガスも2.3ドル/百万Btu台。次の図は米国エネルギー情報局（EIA）が6月13日に発表した天然ガス由来のガス種の市況の動きを示したもの。急落状況がよくわかる（単位・ドル/百万Btu）。



米国の天然ガススポット市況（ヘンリーハブ）は原油価格急落の5月22日以前2.7ドル/百万Btu前後だったのだが、現在は2.3ドル台へと15%ほど下げている。このため、天然ガスに伴って生産されるNGL（天然ガス液・ガス処理プラントを通して分離されたNGLをNGPLという。米国の統計ではNGLとNGPL生産量はほぼ同量）の市況も大幅に下がっている（図の2019年5月以降を参照）。したがって、NGLを分留して得られるエタン、プロパン、ブタン、イソブタン、天然ガソリンも軒並み急落しているわけだ。

5月21日と直近の主要ガス種の価格を示しておく。

プロパン 296ドル⇒219ドル ブタン 269ドル⇒218ドル エタン 170ドル/トン⇒128ドル

天然ガソリン 122セント/ガロ⇒101セント

もちろん天然ガスそのものが原油下げに影響されて下げたことが大きいのだが、原油下げ⇒ナフサ下げ⇒エタン・プロパン・天然ガソリン下げという原料連関による下げも大きく影響している。中東FOBナフサは5月21日には537ドル/トンだったが、6月15日は435ドルだ。ナフサ・エタン・プロパン・ブタンが大幅下落だから、これらを原料とするエチレン市況も下落せざるを得ない。アジア地域のエチレンは1,050ドル/トン⇒840ドルだ。単純にいつてしまえば「原油下ればみな下げる」のだ。

2. <軟化続く国際LPガス市場 現状では7月CP大幅続落>

国際LPガス市況をもう少し詳しくみていく。

①モントベルビュー (MB) 市場

5月第4週のプロパン市況は266～296ドル、ブタンは266～270ドル。第5週はプロパン260～286ドル、ブタン247～275ドルと週後半に下落した。原油軟化の影響を明確にしたのは6月第2週(3～7日)。プロパン207～247ドル、ブタン196～238ドルとなった。第3週前半はそれぞれ210ドル台、210ドル前後で動いている。週後半は原油反騰で上げが見込まれるが、それほどの上げとはなっていない。

12日にEIAが発表した「週間石油需給統計」によると、6月第2週の原油処理量が1月18日の週以来の1,700万桶/日突破(1,706万桶/日)となったことを受けて、プロパンの製油所分生産量が175千トン/日の高水準となった。輸入は12.0千トン/日と8.6千トン/日から大きく増加、輸出は81.5千トン/日と低調だった。他方、需要は72.9千トンと増加した。しかし、総じて供給が需要をかなり上回ったことで、7日現在のプロパン在庫は週間22万トン増の572万トンに膨らんだ。不需要期のこと、在庫増は当然のことだが前年比では139.9%の高水準だ。原油下落とプロパン在庫増から6月第2週のMBプロパン市況は大きく下げた。

他方、ブタンは製油所消費が多いことから一般市場での需給データには乏しいが、同週のガソリン生産量が1,027万桶/日と12月14日の週以来の高水準となった。このため、製油所内のガソリン混入用ブタン消費は増加したが、夏場ガソリンであることから蒸気圧抑制のため、ブタン混入量は抑制されている。市場への出荷ブタン量はこれまでと大差はなかったもよう。市況下落は原油下げを反映したものとなった。

注目はUSGC～極東間のスポットフレートの続伸だ。110ドル/トンにも達した。後述するが、多少緩和したもののインド沖での滞船の影響が大きい。船主は空船を積みがスムーズなUSGCへと回している。更に、ここきてMB市況の大幅低下で極東CFR市況との格差が拡大。トレーダーも利ザヤ稼ぎのためUSGCに船を集めている。滞船状況も発生している。

②中東CP先物市場

5月第4週のプロパンは420ドル台後半、ブタンは405ドル前後。5月最終週には原油下げ等を反映してそれぞれ380ドル台半ば、370ドルどころへと大きく下げた。更に翌6月第2週(6月3日～7日)にはプロパン360ドル台後半、ブタン350ドルへとともに20ドルどころの続落となった。第3週には順に350ドル台半ば、340ドル台前半へと下げている。

カタール、アブダビ、サウジの7月積みターム玉のアクセプタンスは、どこもほぼ買い手のノミネーションどおりの積みに収まったほか、カタールなどは一部を前倒しでの積みを要請してきた。これは、インド勢が7月積みキャンセルしてきたためで、インドの需要低迷と在庫高が改めて浮き彫りとなった。更に、3カ国ともスポット玉の販売に出たとも伝えられており、中東のLPガス需給の緩和が明らかになった。米国から極東へのプロパンだけでなく、ブタンカーゴの流入が増加しているほか、日本の大手輸入元売などがカナダの玉の受入れを開始したことも影響している。需給緩和を映して、中国勢がトレーダー勢と取引する価格も下げ基調となった。原油はともかくイラン玉も中国に入ってきているもようだ。

前述のとおり、空船がUSGCに集まっていることで中東海域の船舶需給がタイトになっている。AG～JPNのスポットフレートは70ドルになった。玉の価格は下がってもフレートはとめどなく上昇。この上昇が逆にCFRの相場を抑制しているとの見方もある。

③極東CFR市場

極東CFR市況も大幅な下げとなった。5月第4週にはプロパン440～485ドル、ブタン420～465ドルだったが、第5週にはそれぞれ430ドル台前半～470ドル台前半、410ドル台後半～460ドルまで下げた。翌6月第2週はプロパン380ドル台前半～410ドル、ブタン360ドル台前半～390ドル台半ばと一気に下げた。原油市況下落の影響が大きかった。第3週にはそれぞれ380～390ドル台半ば、380ドル前後と乱高下する原油市況を睨みながら、概ね横ばい推移となっている。

目立つのはやはりブタンの下げが大きいこと。インド勢と中国勢の買いが萎んだことに加え、米国ブタンが流入してくることの影響がある。また、インドネシアはUSGCからのP・B22:22のカーゴを受け入れたことで、中東ブタンが余剰気味となったことも極東ブタンの下げを大幅にした。

日本勢ではアストモスが発表したとおり、カナダのアルタガスから九州福島基地にプロパンカーゴを受け入れるなど、新規輸入ソースを開拓した。また、アストモスは4月には米国東海岸マーカス・フック積みもカーゴも輸入している（初めてではないが）。

④現段階での7月CP予測

このように見てくるならば、現段階では7月CPは6月CPに続いて大幅続落となると予想される。原油市況の動きいかに関わっていることはいうまでもないが、原油については「オマーン沖タンカー2船への攻撃」という大事件にも係わらず原油は1日高騰しただけ。14日には52.28ドルへと下げている。別稿の原油価格見通しを参照してほしいが、果たしてイランが攻撃したのかどうかには、欧州各国は懐疑的。OPECプラスの減産効果は、米国の原油大增産とこの1カ月の米国の原油輸出が300万バレル/日超となったことで全く薄れてしまっている。加えて世界経済の減速による石油需要の減退は、米国エネルギー情報局が明確に示したほどだ。原油価格が50～52ドルレベルで推移するとするならば、7月CPはプロパンで350～360ドル、ブタンで330～340ドルということになる。